

いのち
生命のにぎわい通信

第18号：発行 平成23年(2011年)8月

千葉県に定着してしまった外来生物(植物編) 生物多様性に及ぼす第3の危機「外来生物による生態系の攪乱」

外来生物とは、もともとその地域にいなかったが、人間の活動によって、国外・国内の他地域から運ばれてきた生物をいいます。「外来生物法」では、生態系、人の生命、身体や農林水産業に悪影響を与える侵略的な外来生物を「特定外来生物」として指定しています。外来生物は一度広がり始めると、駆除するには非常に労力と時間がかかり大変であり、また、日本の各地域の生物が長い時間で築いてきた地域特有の生態系を壊してしまいます。

特定外来生物として、動物では、アライグマ、カミツキガメ、オオクチバス(ブラックバス)がよく知られています。

しかし、植物は、緑化事業や園芸用植物として、数多くのものが持ち込まれて植えられており、その中で、どの種が拡がりやすく、他の植物などに影響を及ぼしているのか判りづらいものです。

外来植物は殖えやすく、特に、河川や湖沼で水生植物が繁茂して、他の植物の生育を圧迫したり、水路の流水を阻害したり、流れた植物体が水門を塞いでしまうこともあります。県では、県内の外来生物について把握し、防除対策の基礎資料とするために検討し、外来植物の影響度・緊急度のランク付けと防除のための基本的方針として「千葉県の外来植物の現状等に関する報告書」(千葉県外来種対策植物検討委員会/平成22年3月)をまとめています。

★特定外来生物：生態系、人の生命、身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から、「外来生物法」により指定され、飼育、栽培、運搬、保管、輸入、販売、野外に放つ、植える・まくなどの行為が禁止される。

△要注意外来生物：特定外来生物と異なり、法律により飼育、栽培等が規制されているものではないが、生態系への悪影響を考へ、適切な取り扱いをお願いしている。a0000 は撮影した調査団員 No. BDC は千葉県生物多様性センターです。



★ミズヒマワリ(中南米原産)

キク科多年草 環境省外来生物写真集
市川市、佐原市、栗山川などで確認。
戦後に観賞用水草アクアプラントとして輸入され、全国の河川で分布拡大。ちぎれた葉茎からも根が出て、短期間で殖え群落となり、水面を覆い、他の植物の生育を抑圧したり、水路を塞ぐ。



★ナガエツルノゲイトウ(南米原産)

ヒコ科多年草 a0544
印旛沼周辺の水路で群落を形成。茎がよく分岐して節から発根し、マット状に繁茂する。ちぎれた茎からも発根し、群落が大繁茂して他の植物や水中の生物に影響があり、水路の水流を妨げる。



★オオフサモ(パロットフェザー)
(南米原産)

アリノトウグサ科 水草 a0622
県内全域に広く分布。水質浄化や観賞用として輸入・販売され、野生化した。茎が地下や水中を横に伸び分岐して群落をつくる。ちぎれた茎からも再生し、他の植物を抑制し、水路を塞ぐ。



★ボタンウキサ(ウォーターレタス)
(アフリカ原産)

サトイモ科多年草 BDC
県内各地に散在。水質浄化や観賞用に輸入された浮遊性の水生植物で、親株の枝先の子株で殖え。水面を覆うほど繁茂し、他の植物や水中の生物への悪影響、治水利水への影響がある。



★オオキンケイギク(北米原産)

キク科多年草 a0329
県内全域に広く分布。観賞用や緑化植物として明治時代に輸入され、全国の河川敷や路肩に生育し群落をつくる。花がきれいなため、現在でも庭等に植えられている。群落を作り、光を遮るため、在来植物への悪影響がある。



★オオカワヂシャ(ユーラシア原産)

ゴマノハグサ科多年草 a0329
北総、南総西部に散在。全国各地の河川、湿地等で確認され、種子繁殖でも茎を伸ばしても植物体の断片からも殖えて繁茂し、他の植物へ影響を与える。在来種カワヂシャとの交雑して雑種を形成する。



★ナルトサワギク(マダガスカル原産)

キク科多年草 BDC
館山市と南房総市で防除事業実施中。1976年徳島県で確認後、拡散。埋め立ての土壌に種子が混入して拡大することもある。風で種子が散布拡大し繁殖力が強い。家畜に毒性があり、オーストラリアでは牧草地で防除した。



★オオハンゴンソウ(北米原産)

キク科多年草 BDC
北総に散在。明治時代中期に鑑賞用に輸入され、野生化した園芸植物。河川敷や湿地に侵入し大群落を作り、在来植物と競合して抑制するなど影響を与える。

最新の生物多様性に関する情報、各種講習会の情報は、調査団のホームページをご覧ください

「調査団」<http://www.bdcchiba.jp/monitor/index.html> と 「生物多様性センター」<http://www.bdcchiba.jp/>

千葉県に定着してしまった外来生物（動物編）



☆カミツキガメ(北米～中米原産)

カミツキガメ科 BDC

ペットとして輸入されたものが捨てられ、印旛沼周辺で野生化している。大量の魚類、エビ、カエル、昆虫を食べるため、生態系への影響が大きく、陸上で発見されたカメは人にも危険なため、防除事業を実施中。



△ミシシッピアカミミガメ(ミドリガメ)
(北米原産)
ヌマガメ科 a0512

県内全域の河川・湖沼に多数生息。ペット店で販売されているが、寿命が30年あり、大きくなるため捨てられ増えている。エビ、水生植物を食べ、エサや生息場所が競合する在来カメ等に影響を及ぼす。



△スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)
南米原産
リンゴガイ科 a0049

九十九里平野に多数生息し分布を拡大中。食用として輸入されたが養殖が失敗して捨てられ野生化し、水生植物や水稻の苗を食害している。卵塊はピンク色で用水路のコンクリート壁に多数産卵される。

千葉県における外来種対策については、当センターのHPで説明しているのでご覧ください。

<http://www.bdcchiba.jp/alien/index.html>



☆ウシガエル(食用ガエル)(北米原産)

アカガエル科 a0261

県内全域に多数生息。食用として輸入されたが、逃げ出し野外で大繁殖した。魚類、水生昆虫類、エビ、他のカエル、鳥類のヒナなどを捕食し、生態系への影響が大きい。鳴き声がウシのようで大きい。



☆チャネルキャットフィッシュ
(アメリカナマス) 北米原産
イワタルス科 a0418

利根川水系に生息。食用として埼玉県や霞ヶ浦に導入後逃げ出して殖えたとされている。大量の魚類やエビ類などを捕食し、生態系への影響が大きい。ヒレに鋭いトゲがあり、人がケガをしたり、漁網への被害がある。



☆オオクチバス(ブラックバス)
北米原産
サンフィッシュ科

環境省外来生物写真集 県内全域の湖沼に相当数生息。釣り対象魚として輸入され、釣り人が全国各地の湖沼へ移入させて拡大した。在来魚、エビ、水生昆虫など様々な生物を捕食し、生態系への影響が大きい。



☆ブルーギル(北米原産)

サンフィッシュ科 環境省外来生物写真集

県内全域の湖沼に相当数生息。放流されたり、放流種苗に混入していたりして全国に分布拡大された。魚卵や小型の魚類や水生昆虫などを捕食し、かつ在来種の魚類のエサを奪い生態系へ影響を与えている。

千葉県生物多様性ハンドブック2「外来生物がやってきた」 & 「外来種下敷き」



「千葉県生物多様性ハンドブック2」身の回りにいて、かつ生態系へ大変深刻な影響を与えている外来生物について解説しました。外来生物とその問題点、今起きていることと対応、わたしたちができることをまとめました。当センターのHPからPDF版でダウンロードできます。



「外来種下敷き」これだけは知っておきたい外来生物のはなし、一度飼いだめた生き物は野外に放さない約束を、児童、生徒向けにまとめており、環境の学習に使ってもらえます。生物多様性の巡回展示でも、児童に大人気の教材です。当センターのHPからPDF版でダウンロードできます。

「現地研修会 in 大草谷津田いきもの里 千葉市若葉区」

調査団員限定の現地研修会を平成23年6月5日(日)に行いました。34名で、初夏の里山を観察し、千葉みちくさ会の指導員の説明をいただき、谷津田の保全により守られる、人と生きものの共生について、知ることが出来ました。



<今の、これからの生物季節の報告>

アマサギ、ヤマトタムシ、ナガサキアゲハ、クマゼミ

<外来生物>本通信に記載されている**特定外来生物**・**要注外来生物**についても報告をお待ちしています。